

## 令和6年度心のバリアフリー教育グッドプラクティス 応募資料

学 校 名	野田市立木間ヶ瀬小学校
ア 全校児童生徒数	143名 (令和6年5月1日現在)
イ 実践対象 (学年・人数など)	①3年生24名、4年生26名、5年生31名、6年生24名 ②全校児童146名
ウ 実践内容 (実施時期・概要など) ※画像の挿入可	<p>①総合的な学習の時間に、『心のバリアフリーノート』や『I'm POSSIBLE』の教材を活用し、学年ごとにテーマを決めて心のバリアフリーについて学習する。</p> <p>5月：『心のバリアフリーノート』を活用した学習3～6年生 6月：『I'm POSSIBLE』の教材を活用した学習4～6年生 7月～:学年ごとにテーマを決めて年間を通じて探求学習を開始 3年生：「木間ヶ瀬小学校バリアフリー化大作戦」 4年生：「身の周りのバリアについて考えよう」 5年生：「心のバリアフリー～私たちの提言～」 6年生：「私たちにできる『心のバリアフリー』」</p> <p>10月：『あすチャレ！スクール』5・6年生 福祉体験（車いす）4・5・6年生</p> <p>11月～:②「木小フェスティバル」にて中間発表（保護者を招待） 学習発表会に向けての準備 2月：「心のバリアフリー」学習発表会（予定） パラアスリートによる講演会（予定）</p> <p>②「みんなが、みんなが楽しめる」をキーワードに、バリアフリーの視点を取り入れた学校行事「木小フェスティバル」づくりに全校児童で取り組む。</p> <p>9月：①での学習を生かして、5・6年生を中心に行事の内容を計画する。</p> <p>10月：計画に基づいて縦割りグループごとに準備を進める。</p> <p>11月：「木小フェスティバル」実施。 前半は、①の学習の中間発表を行う。 1・2年生：みんなが楽しめるおもちゃ作り（生活科） 3年生：学校内にあるバリアと対策について 4年生：日常生活の中の4つのバリアについて 5・6年生：バリアフリーの視点を取り入れた各グループのお店について 後半は、ボッチャやゴールボールなど、グループごとに「みんなが楽しめるお店」を出し交流。</p> <p>③「心のバリアフリー教育」について年間を通じて職員研修を行い、各教科の授業、学級経営等、学校生活全体の中で「心のバリアフリー」の視点を取り入れた指導をする。</p>

<p>エ 実践の普及啓発 (地域等との交流や 広報方法など)</p>	<p>①・心のバリアフリー学習発表会 (保護者参観等) ・学習成果物の校内掲示</p> <p>②・学校Webページに日々の学習活動の様子の掲載 (毎日更新) ・学校だよりに活動の様子の掲載 (全校生徒の家庭へ配付)</p>
<p>オ 実践成果 (児童生徒の変化など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あすチャレ! スクール」で初めて車いすバスケットボールの体験を通して、車いす操作の難しさを経験したり、パラアスリートのお話を聞いたりすることで、多くの児童が夢を持つことや、夢を具体的な目標にして努力することの大切さを感じていた。</li> <li>・木小フェスティバル後の振り返りから、「パラスポーツ」に興味を持つ児童が増えた。</li> <li>・パラスポーツは、「障害がある人のスポーツ」ではなく、「誰でも誰とでも楽しむことができるスポーツ」ということを知った。</li> <li>・学習や生活など様々な面で「どうしたらよりよくなるか。」と多面的多角的に考えようとする児童が増えた。</li> <li>・周りを見て困っている友達に進んで声をかけたり、助けようとしたりする姿が多くみられるようになった。</li> </ul>
<p>カ 次年度の予定 (課題や改善策など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーに関する校内掲示について、地域住民にも見てもらい、意見交換をする場を作る。</li> <li>・地域の障害のある方を講師に講演やパラスポーツ体験会を実施する。</li> <li>・職員研修を継続して行い、学校環境や学級経営に生かしていく。</li> </ul>
<p>キ 添付資料 (広報資料・Web記事など)</p>	<p>①学校Webページ (10月3日更新) ②学校Webページ (11月9日更新) ③校長室だより (全校生徒に10月11日発行) ④学団だより11月号 (学団ごとに11月14日発行)</p>